

ハタ類の資源を守るために ～複数機関との連携による資源解析への挑戦～

資源生産部 藻類・沿岸資源管理グループ 中川 雅弘

当グループでは西日本の重要な沿岸漁業対象種であるハタ類の資源研究を実施しています。今回は、他機関との連携によって進めているハタ類の資源解析について紹介します。

一般的に資源研究を進めるためには、生物学的情報のほかに、漁獲調査などから得られるデータを基に、まずは現状の資源状態を推定することから始まります。次に、得られたデータに基づいて、今後対象種の資源が増加するのか、それとも維持されるのか、あるいは減少するのかを予測し、ハタ類の資源量維持・増大に向けての対応策を準備・構築することが重要になります。



写真1 ハタ類(クエ)の未成魚(生後約1年、全長20センチ)

資源解析に必要なデータ

基本的に資源解析には、①系群情報、②漁獲量、③年齢と体長(体重)の関係から推定した年齢別漁獲尾数、④年齢と成熟率の関係、⑤自然死亡係数などのデータが揃えば、資源量の推定及び予測が可能となります。しかし、資源解析の長年の実績がある他の魚種に比べると、ハタ類ではこれらのデータがかなり不足しています。データ収集を一つの機関で実施するには非常に時間を要しますし、ハタ類は高価な魚なので、生物情報を得るためのサンプルとして購入するだけでも非常に経費がかかります。このようなことから、ハタ類の資源解析の必要性が求められながらも、資源研究への対応は困難な状況が続いてきました。

ハタ類資源解析研究会の設立

本研究会は、西海ブロック水産業関係研究開発推進会議において関係機関からの要望に基づいて平成27年に設立され、これまでに3回開催しています。本研究会では、ハタ類の資源解析に必要なデータである年齢と体長(体重)、年齢と成熟率の関係、体長と体重の関係、自

然死亡係数の推定等について、各機関が保有するデータを整理し、不足しているデータ等については、その収集を各機関で分担して計画的に行い、データの共有化を図ることとしました。

資源解析の実現に向けて

前述の取り組みが開始された当初、各機関がどのくらいのデータを保有しているのかまったくわからない状況でした。しかし、会議を重ねる度に予想外に多くのデータが保有されていることがわかりました。そこで、各機関からデータを提供していただき、使用できるデータを集約し、現在ではクエ、キジハタ、スジアラの3種の資源解析に必要なデータが揃ってきました。暫定的なパラメータもありますが、それを利用して研究会に参加している各機関で資源解析が実現されつつあります。

平成29年度のハタ類資源解析研究会には、北は富山県から、南は沖縄県までの18機関26名がほぼ地理的に中間地点である山口県に集結し、資源解析の進捗状況などが紹介され、各機関の担当者のハタ類に対する熱い思いが伝わる研究会でした。参加している各機関の皆さんの地域の漁業者の笑顔が続くように、我々研究者も頑張っていきたいと強く思います。



写真2 魚市場の活魚水槽(クエ)

発行：国立研究開発法人水産研究・教育機構
編集：国立研究開発法人水産研究・教育機構
西海区水産研究所
〒851-2213 長崎県長崎市多良町1551-8
TEL 095-860-1600 FAX 095-850-7767
ホームページアドレス <http://snf.fra.affrc.go.jp>
本誌掲載の文章・画像等の無断転載を禁じます。